

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071001194
法人名	有限会社 正和
事業所名	グループホーム 平尾宅老所 (ユニット名 1ユニット いりこ )
所在地	福岡県福岡市中央区平尾1丁目10-6
自己評価作成日	平成25年1月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生活し支え合い、喜びを分かち合う家族のように」という理念をいつも考え、利用者に寄り添い支援していきます。安全に安心して楽しく生活をしをして頂く事を心掛けて介護に努めます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはビルが立ち並ぶ街中に位置し、7階建ての2、3階が3ユニットのグループホームになっている。一人では外に行けないため、季節ごとの花見や日常的な散歩、ゴミ出しや布団干し等で1階に降りるときは必ず利用者と一緒に行くようにしている。職員は日常業務の中で困ったことがあれば、一人で悩まず全員で共有するようにしている。また、介護技術に関しても職員全員で確認し、それぞれの利用者に職員が統一したサービスが提供できるように努めている。安心して楽しく笑顔で過ごしていただくことをモットーにしており、職員と利用者の距離が近く、非常に家庭的な雰囲気のあるホームである。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年2月14日

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中で自分らしく生活することを支援致します」という理念を共有し、それとともに利用者様と一緒に家事をしたり、地域の清掃や運動会等の行事にも積極的に参加しています。	職員は利用者と同視線を合わせ、聞き取りやすい声でゆっくり話す等、理念に謳われている家庭的な環境を常に意識して利用者に接しているが、理念には地域に関する記述がみられない。	ホームはビルが立ち並ぶ街中にあり、7階建ての2、3階に位置している。地域との交流に努めているが、理念には地域に関する記述がないので、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念作りを全職員で取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、運動会、奉仕活動、季節ごとの様々な行事に参加し、地域の方々と交流を深めることができました。	地域の季節ごとの行事には利用者とともに参加している。ホームが行うそうめん流しや餅つきには自治会に回覧板で知らせ、ビル1階の共用空間で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会を毎月開き、セミナー等にも積極的に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、そこでの意見を基にサービス向上に努めています。	自治会長、民生委員、区役所の担当者、地域包括支援センター職員、家族等で運営推進会議を行っている。ホームの状況や新入居者の様子、特に困難事例を発表してアドバイスを受け、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度は中央区役所へ訪問しています。又、中央区の保護課や包括支援センターの担当の方と連絡を取り、連携を図っています。	生活保護受給者がおられるため、福祉事務所の職員とは緊密に連携をとっている。地域包括支援センターの職員とも困ったこと等があれば相談し、サービス向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関の施錠はしていますが、禁止の対象になる行為を理解し、身体拘束をしないケアを日頃より行っています。	ホームはビルの2、3階にあり、1階に降りるには暗証番号を押してエレベーターを使用している。夜になると帰宅願望のある方には行動を制限せず、窓の外をみる等して外出時間ではないことを納得してもらう対応をしている。言葉による拘束に該当する「だめよ」等の言い方も職員間でお互いに注意あっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会に参加して、学んだことをスタッフ全員に伝達しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加して、学んだことはスタッフ間で共有しています。	現在、成年後見制度等を活用している利用者はいないが、管理者は外部の研修に参加して、伝達講習を行っているため、職員は必要な人には情報提供ができる状態にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所前にご本人様、ご家族様と話し合う機会を作り、不安や疑問点についての説明を行い理解・納得を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設け、いつでも対応できるようにしています。 面会にこられた際には、日頃の様子を説明して家族会等でも意見を頂いています。	家族会を年1回開催し、意見や要望を聞いている。その他、面会時や電話で聞くようにしているが意見や要望がでることは少ない。意見等をいただいた場合は些細なことでも職員間で検討し改善するようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニットにてユニット会議や定期的に業務改善委員会を開き、職員の意見を聞き反映させています。	毎月1回行っている会議では、職員は自由に意見を言うことができている。日常の業務の中で困ることがあると一人で悩まずにみんなで共有し解決するようにしている。介護技術も職員全員が統一したサービスを提供するように確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各管理者による個別面談を行ったり勤務状況の把握確認を行い、各自が向上心を失わないように努め、相談しやすい環境づくりをしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員一人一人の能力や個性が発揮できるように配慮し、やりがいを持って働ける職場作りをしています。	職員の募集に当たっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。ホームでは20歳代から50歳代の職員が働いているが、歌や折り紙等それぞれ得意な分野を活かして、いきいきと活動している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に一回、人権研修に参加しています。 日々の業務の中で利用者様の立場に立って考えて行動すように取り組んでいます。	外部の研修に職員は交代で参加し、伝達研修を行っている。利用者は人生の大先輩であるという意識を持ち、言葉遣いや行動に注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的実施されている外部研修に参加しています。 又、社内でも適宜指導を行なっています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一回行われている区のケアマネ会議等に参加しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が困っていること、不安に思っていることをその都度聞き取り、看護師、ケアマネを含めて話し合いの場を設けて安心できるように努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成前の情報収集として、ご本人様、ご家族様の困っている事、不安な事やご要望等を聞き取り支援しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様が「必要とすることは何か」を見極めて優先することを話し合い、ご期待に沿えるサービスの導入を実施しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができる事に参加して頂き、それ以外のことのフォローを職員が一緒に行うようにしています。 共に生活の場を作りお互いの信頼関係を築いています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や季節毎の行事、レクリエーション時にはご家族様に声掛けをして参加して頂き、連絡を密に取り、共にご本人様を支援している関係作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅中の交友関係が途切れないように定期的に面会に来て頂いたり、行きつけの店員さんに会いに行く等、個々の馴染みについての支援を行っています。	行きつけの美容院には家族が一緒に行っている。職員と一緒に馴染みのタバコ屋でタバコを買ったり、利用者の希望で馴染みの写真屋で撮影をしたりして、馴染みの関係継続の支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないように利用者様同士と一緒に楽しめるゲーム、歌、レクリエーションをしたり、一緒に家事を行い、お互いに支え合える関係に努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話があった際には話を聞いたり必要に応じてフォローする等支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや希望を聞き取り、ご本人様を含めて話し合いをし、できるだけご意向に沿ったケアができるように努めています。	入居前に家族や利用者から、思いや意向を伺っている。入居後は職員から声をかけたり、行事を通して、表情や行動から利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい生活を送って頂くために生活歴、生活習慣、馴染みの暮らし方を把握して継続できるように努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活、習慣をもとにその方らしい一日の過ごし方心身の状態の確認、把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話での話の中で、ご意見、ご希望、お気持ち等を聞き、介護計画作成に反映させています。	担当制を取り入れているが、スタッフ会議では色々な意見を出し合っている。家族、利用者、看護師、担当者が話し合っって介護計画作成に活かしている。見直しは基本的には3ヶ月としているが必要に応じてその都度見直し、家族にも説明と了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に日々の様子や気づきを毎日記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに努めています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の日々の心身状態を把握し、その時々生まれるニーズに合った介護方法を行い臨機応変に対応しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の生活状況を把握して、ご本人様が持っている心身の能力を発揮できるように努めています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様からの希望を重視して、できるだけ希望に沿えるように支援しています。	利用開始前のかかりつけ医を継続利用している方は家族が受診に同行している。病院の送迎でリハビリを受けている方もいる。利用者の多くは週1回の往診と訪問歯科の協力医を利用している。また、緊急時の対応や協力医、家族との連携ができています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、申し送り時に報告しています。 なお、状態の変化に伴う連絡は適宜行っています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様に利用者様の心身の状態確認を電話で行っています。 病院側との情報交換や入退院の相談等に努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご家族様、主治医と職員とで相談をしながら支援できるように取り組んでいます。	利用開始時に家族や本人にホームの方針を説明している。現在までに看取りは行っていないが、本人の状況変化への対応、ホームで出来ることとできないことの説明、家族や利用者の要望に添えるように職員で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習会等、定期的に研修に参加しています。 緊急マニュアルを作成し、急変時の訓練、救急搬送の訓練等、随時行って行きます。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、消防訓練は昼夜設定で年2回実施しています。 高齢者の心理的な部分もふまえての訓練を行っています。 町内会長様、民生委員様、地域の方々に随時報告をしています。	年2回、消防署と一緒に昼夜を想定して避難訓練を実施している。スプリンクラーを設置し、職員は避難経路や避難場所、備蓄等について周知している。近隣地域には非常ベル等に驚かれないように事前に日時を連絡している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	分かりやすい丁寧な声掛けをし、利用者様の気持ちを考えた対応をしています。 一人一人に合った声掛け、対応の仕方を工夫しています。	利用者の人格を尊重した接遇に取り組んでいる。トイレ誘導や入浴介助では羞恥心やプライバシーに配慮し、声かけ等、一人一人に合った対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で利用者様の好きな物ややりたい事を聞き取り、自己決定できるように働きかけています。 希望に沿った生活ができるように努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が今何をしたいのか、どうしてほしいかを常に考え、一人一人の関わりを深めていくように努めています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に更衣時に洋服を選んだり、整髪したり、おしゃれを楽しんで頂けるように努めています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量や能力に応じた事をお手伝いして頂き、職員や利用者様と一緒に準備や後片付けを楽しみながらできるようにしています。	栄養士が立てる献立に、時には利用者の好みを取り入れている。利用者はお米洗いやテーブル拭き、食器洗いなど職員と一緒にやっている。職員は食事時の利用者の状況を見守りながら、安全に楽しく食事が行われるように気配りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による計算された献立を作成し、個々に応じた形態で提供しています。 食事時以外に10時、13時、15時に水分補給を行っています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、歯磨き、うがい、義歯洗浄の介助等、個々に合わせたケアを行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った時間誘導、声掛けを行っています。 排泄表を確認して個人の排泄パターンに応じて行っています。	夜間のおむつ着用者やポータブルトイレ使用の方が数人いるが、一人ひとりの排泄習慣を把握した上で日中はトイレ誘導している。入院中におむつを使用していた方が退院後は少しずつおむつを外したり、トイレへの誘導回数を増やしたりしながら布パンツに代わる等、職員は自立にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食事時、おやつ、お茶タイムの水分補給に加え、散歩、軽体操等に努めています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるように努めています。 個々の希望に合わせて入浴しています。 拒否がある場合には介護士、曜日、声掛けを変え、対応しています。	日曜以外は浴槽に湯を準備している。入浴を拒まれる利用者には、足浴や手浴でリラックス効果を上げ、入浴につなげることもある。時には入浴剤を取り入れたり、職員の交代、日時の変更などで一人ひとりの望む入浴ができるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の利用者様の状況に合わせて休息して頂いたり、居室でTVを見て頂いたり、一人一人の気持ちを優先させています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬内容を確認し職員同士で名前、日付を声に出して確認に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物のお手伝いをして頂き、季節毎の行事に楽しく参加して頂けるように努めています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿った散歩や買い物、外食等をして頂けるようにして、気分転換を兼ねた外出の支援を行っています。	気候に応じて、近くの神社や公園に出かけたり、近隣を一回りする等、外気に触れる支援している。公園ではハトに餌をやったり子供たちと交流することもある。遠方への花見や動植物園には車で出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望を聞き、買い物、外食をして頂き、お金を使えるように支援しています。又、ご本人様の財布を用意し、そこから買い物ができるようにもしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの希望に応じて年賀状を出したり要望があればご家族様へ電話をかけたります等、ご家族とのやりとりを支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きな音楽、TVを流しています。温度、湿度を調節し、こまめな清掃により快適な空間作りに努めています。又、イベント時には飾り付けをしています。	1階の広い玄関フロアにはいつも休憩や談話が出来るように椅子とテーブルが置いてある。ユニットごとのリビングや廊下には空気清浄器をセットしている。椅子やソファが置かれ、利用者がそれぞれくつろいで過ごせるように取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士が楽しくお話されたり、一人一人の時間を穏やかに過ごせるように席の位置に配慮しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用されていた物や写真等を持ち込んで頂いたり、利用者様のニーズを考え安全で居心地の良い空間作りに努めています。	入居前に使用していた椅子や小物、テレビ、仏壇、家族写真等、一人ひとりの居室としての空間作りに取り組んでいる。ベッドより布団を希望される利用者には、床にカーペットを敷き希望に添えるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには手すりが付いており安全に歩行して頂けるようにしています。エレベーター前、玄関先には椅子を置き、ご自分で靴の脱着ができるように環境作りに努めています。		